

「国際森林年」記念事業の開催について

H23.9.8

環境森林部 森林・林業経営室

国際森林年とは

1992年リオデジャネイロで開催された、国連環境開発会議「地球サミット」において指摘のあった「森林の保全と持続可能な経営」という森林保全の重要性について認識を広めるため、2006年12月に国連総会決議で定められたものです。(前回の「国際森林年」は、26年前の1985年でした。)

目的と世界・国の取り組み

世界中のあらゆるタイプの森林保全と持続可能な経営の重要性に対する認識を高めることを目的としており、アメリカ・ニューヨークの国連本部にある国連森林フォーラム (UNFF) が実施の中心となっており、森林・林業再生や REDD(森林減少・劣化防止による排出削減)などの事業推進のほか、植樹・森林祭・スポーツ大会などのイベントが予定されています。

国内においても、「森を歩く」をテーマとし、「未来に向かって日本の森を生かそう」「森林・林業再生元年」をサブテーマに、森林・林業に対する国民の理解を求めようとする運動(植樹祭・育樹祭の開催や緑の募金運動、美しい森林づくり推進国民運動、木づかい運動など)が行われています。

林野庁では、地方自治体と連携した国際森林年記念行事(「市民と森林をつなぐ国際森林年の集い」)として、全国15ヶ所で地方イベントの開催を予定しています。

三重県の取り組み

三重県では、国際森林年を契機として、「三重の森林・林業の未来を考える」をコンセプトに、豊かな森林を守り育てていくこと、またそのために県民一人一人が森林や林業に対する認識を深めてもらうことを目的としています。

具体的には、9月24日(土)に伊勢市で開催する「もっと知ろう！三重の森林」をキックオフイベントとして、県下各地域で開催する「国際森林年」記念事業を開催する予定です。これらのイベントに多くの県民の方が参加いただき、森林や林業に直接ふれあうことで、今後の森林・林業の未来を考えるきっかけづくりにしたいと考えています。

なお、これらのイベントのうち、9月24日(土)の「もっと知ろう！三重の森林」と10月15日(土)に尾鷲市で開催する「三重の森林(もり)と木づかいフェア」が「市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 三重」として国の地方イベントに指定されました。